

年間テーマ  
「共に暮らす家を大切に！」

No. 368



# パンダ

2020年5月1日発行  
(毎月1回1日発行)

カトリック谷山教会

891-0113

鹿児島市東谷山2-33-13

TEL 099-268-2084

FAX 099-284-5738

E-Mail: [tanigami-cc@lagoon.ocn.ne.jp](mailto:tanigami-cc@lagoon.ocn.ne.jp) URL: <http://www5.ocn.ne.jp/~tcc/>

発行人: 頭島光 神父 編集委員: 太田嘉二郎 岸誠之助 上原敏子 上釜照美

## 「今、何が突き付けられているか？」第2弾

マリア様の月に入って、今もなお、新型コロナウイルスによる感染の勢いは留まることを知りません。ウイルスとは、本来、自然のうちに始めから存在し、人間世界とは常に隣りあわせでした。例えば、毎年冬季になるとインフルエンザが流行するのも、まさにその証です。人類は、ある意味、こうしたウイルスとの闘いの歴史を繰り返して来たとも言えます。その度に、人類が勝利を収めたかという、決してそうではありません。近年で言えば、エボラ出血熱、SARS、MARS 等、恐ろしい感染症に見舞われ、何とか克服はして来たものの、毎年のように恐怖は襲ってくるのです。

### ◆「何が起きているか」

私たちカトリック教会もこのコロナ禍によって今日まで公開ミサ中止へと追い込まれてきました。既に二カ月が過ぎようとしています。活路を見出せぬまま、更に一カ月、悶々と息を潜めて生きていくのでしょうか。ここで再度、世界に「何が起きているのか」を問いながら、同時に「何が突き付けられているか」を考えましょう。これは、その第2弾です。

### ◆「生きるために必要な「過密」社会？」

人類は生きるために常に過密な社会を構築し、人との集まりの中で生きてきました。つまり、人は他者と関係なしに独りで生きる存在ではなく、あくまで社会という共同、共通の世界で生き、人と人との密集の中に暮らし共に歩むのです。もはや、人類は他者の存在なしには生きていけない存在なのです。しかしながら、「過密」は、ある意味、諸動物との距離も縮める結果となって、家畜の病気に感染するリスクも背負いました。そして、本来、人との接触がなかった感染力の強いウイルスに、今冒されていると言えます。

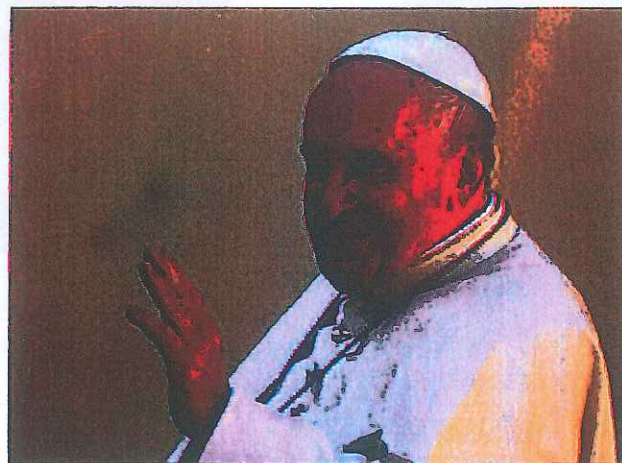
### ◆「人の中から出て来るもの」

イエスは「人の中から出て来るものが、人を汚すのである」(マコ 7:15)と言われました。これは勿論、ウイルスのことではなく、医療従事者やスーパーの店員までもが心無い人の口から言葉の攻撃を受けたと聞くと、さすがに悲しいことですが、イエス様の言う通り「人の中から悪いものが出て人を傷つける」。それが現実だということです。コロナ感染症は、確かに人を死なせて

しまうほど恐ろしい病気ですが、それ以上に怖いのは、人の口であり、それは魂までも打ち砕くほどのものなのです。

### ◆「魂の牧者」キリスト

人間はみな、心のうちに魂という霊的な命の光を持っているものです。その光が命の輝きを失うことほど恐ろしいことはありません。一体、それがどこから来るのか。もし隣の人から来る



とすれば、防ぎようがありません。そこで、私たちから声を発することをやめて、人の声を聴くことに集中しましょう。「魂の牧者」であるキリストの声を聴くことができた私たちですから、できないことはありません。愛の心で、人の痛みや悲しみ、そして苦しみを聞きとる耳を持ちましょう。

今月の聖人から

## マチア使徒

5月14日

イスカリオテのユダがイエズスを裏切った後、他の11人の使徒たちは、使徒の数を再び元の12人にしようと決めた。そこに、二人の候補者がいた。ヨゼフ・バルサバという名の信仰の深い義人と、もう一人はマチアであった。弟子たちは集まって祈ってから、新しい使徒を選ぶくじを引いた。するとマチアがくじに当たったので、彼が12人目の使徒として仲間に加わることになった。

マチアが一つの福音書を書いたという説が初代教会で広まったこともあったが、これは全く消滅した。私たちが、確実に、マチアについて知っていることは、聖ペトロが言ったように「彼は、イエズスが私たちと共に生活されていた間、つまり、ヨハネの洗礼のときから始まって、私たちから離れて天に上げられた日まで、いつも一緒にいた人々の一人であり、キリストの復活の証人である」ということである。



## 聖コロナ： パンデミックの 守護聖女

助任司祭 ジョバンニボスコポーラ

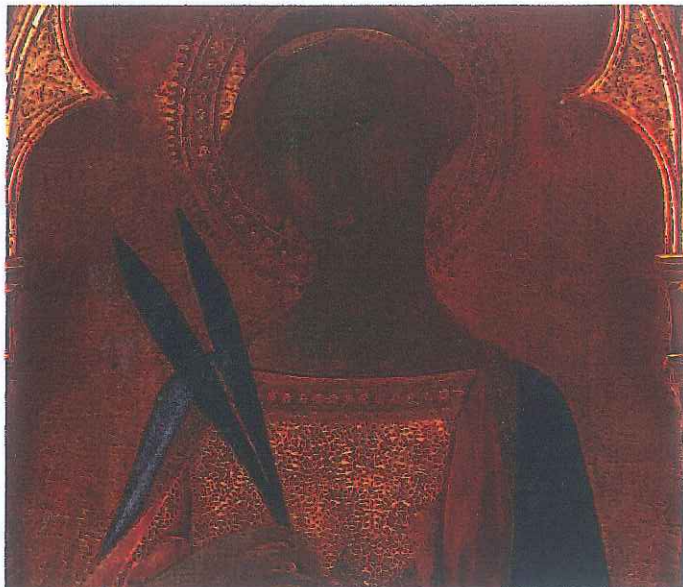
最近、よく話題になっている聖女の一人は聖コロナです。しかし、今、世界で拡大している新型コロナウイルスとは直接、関係はありません。確かに、実際に聖コロナは第16代のローマ皇帝マルクス・アウレリウス・アントニヌスの時代（121年 - 180年）に生きた聖女でした。十六歳の時、コロナはビクターというローマの一兵卒と結婚しました。当時、コロナは彼がカトリック教会の信者とは知りませんでした。しかし、後になってご主人様のような信者になることを決心しました。

ある日、ビクターが捕えられ鞭打ちの刑に処せられた時、コロナ自身、ビクターを釈放するため宮殿にやって来ました。主イエスキリストへの信仰のゆえにローマ皇帝の審問官セバステアンの命によって、コロナとビクターは死刑に処せられました。この悲劇はシリアでの出来事でしたが「ローマの殉教者伝」という書物によって明らかにされました。この二人の遺骨は北イタリアのアンズという街のバシリカ聖堂に安置されました。9世紀以降、ここに保存されています。彼らはグレゴリオ9世教皇によって殉教聖人として列聖されました。

1943年と1981年、二回にわたり、二人の遺骨は詳しく調査されました。これらの調査の結果、遺骨が確かに彼らであることが再び実証されました。特に1981年の調査では、当時、地中海沿岸の代表的な植物であったスギ花粉をそこに発見されました。考古学者によると、この花

粉はシリアとキプロスにのみ存在することが確認されています。

聖コロナの名はドイツ語圏のヨーロッパ、特にオーストリアとバイエルンで広く使われる名です。これらのドイツ語圏の二つの地域で、聖コロナは、伝染病、特にパンデミックと闘う様々な支援活動及び運動を展開する人々の保護の聖女と認められました。聖コロナは当初、盲目的な金銭欲者から守るため執り成しを祈



る人々の保護者とされてきましたが、これを直接、示す証拠はありません。現在聖コロナは伝染病とパンデミックによる被害者のために保護者として尊敬されています。

皆さん、聖コロナと聖ビクターの祝日は、毎年5月14日に記念されます。同日私たちは聖マティアの祝日を記念しますが、聖コロナと聖ビクターの取り次ぎによっても、新型コロナウイルスの感染拡大防止及びその終息のために神様の豊かな恵みをご一緒に祈り求めましょう。アーメン。

令和二年 谷山教会 5月の予定と祝日表 (5/1~5/31) 西暦2020年

日時	典礼と行事	朗読奉仕	掃除	班会等
5月1日 (金)	労働者聖ヨセフ 初金ミサ中止			
2日 (土)	記念 聖アタナシオ司教教会博士 主日のミサ中止		⑤⑪	⑤⑪掃除後教会
3日 (日)	9:00 (ライブ配信)復活節第4主日 世界召命祈願の日	㊥ 国民の祝日(憲法記念日)		
4日 (月)	朝ミサ中止	㊥ 国民の祝日(みどりの日)		
5日 (火)	朝ミサ中止	㊥ 国民の祝日(こどもの日)		
6日 (水)	㊥ 国民の祝日(振替休日) 水曜ミサ中止			
7日 (木)	朝ミサ中止			
8日 (金)	朝ミサ中止			
9日 (土)	主日のミサ中止		⑥⑦	⑥⑦掃除後教会
10日 (日)	9:00 (ライブ配信1班担当)復活節第5主日	⑥⑦		
11日 (月)	朝ミサ中止			
12日 (火)	朝ミサ中止			
13日 (水)	19:00 記念 ファティマの聖母 召命ミサ			
14日 (木)	6:30 祝 聖マチア使徒 / 記念 聖コロナ 朝ミサ 祈りと断食愛徳の業の日(パンデミック終息を願って)			
15日 (金)	6:30 朝ミサ			
16日 (土)	主日のミサ中止		⑧⑨	⑧⑨掃除後教会
17日 (日)	9:00 (ライブ配信2・3班担当)復活節第6主日	⑧⑨		
18日 (月)	6:30 朝ミサ			
19日 (火)	6:30 朝ミサ			
20日 (水)	19:00 水曜ミサ			
21日 (木)	6:30 朝ミサ			
22日 (金)	6:30 朝ミサ			
23日 (土)	主日のミサ中止		⑩	⑩掃除後教会
24日 (日)	9:00 (ライブ配信4班担当)祭 主の昇天 (ミサ後役員会)	⑩		
25日 (月)	6:30 朝ミサ			
26日 (火)	6:30 記念 聖フィリッポ・ネリ司祭 朝ミサ			
27日 (水)	19:00 水曜ミサ			
28日 (木)	6:30 聖母祭(ひまわり幼稚園) 朝ミサ			
29日 (金)	6:30 朝ミサ			
30日 (土)	19:00 主日のミサ未定		①	①掃除後教会
31日 (日)	9:00 (ライブ配信5班担当予定)祭 聖霊降臨の主日	①		

奉納は掃除当番が行う  
 五月の行事当番は二・三班

ロザリオの祈り	[毎週(火) 10:00]	5日、12日、19日、26日
レジオ・マリエ	[毎週(水) 14:00]	6日、13日、20日、27日
聖書と教理-I	[毎週(木) 15:00~16:30]	7日、14日、21日、28日
聖体礼拝	[毎週(木) 13:30~14:30]	14日、21日、28日 (7日はサビエルで7:00)
聖書と教理-II	[毎週(金) 9:00~10:00]	1日、8日、15日、22日、29日